

すべての国連加盟国が参加できる 国連環境総会 (UNEA) の開催

2012年に開かれた国連持続可能な開発会議（リオ＋20）において、国連環境計画（UNEP）の強化策として、それまで58カ国によって構成されていた管理理事会をすべての国連加盟国が参加できる国連環境総会（UNEA）に改組することが決められた。それを受けて、2014年6月23～27日まで、UNEAの第1回会合がケニア・ナイロビにおいて開催され、157カ国の代表が出席した。

そこでは、全体委員会のほか、決議案起草部会、事業計画・予算交渉部会、化学物質・廃棄物交渉部会、手続規則改正交渉部会、また、閣僚級成果文書に係る議長フレンズ部会が並行して開かれた。他方、後半に開かれた2日間の閣僚級会合においては、持続可能な開発目標（SDGs）基準と2015年以降の開発目標が主テーマとされた。また、野生生物の違法取引に関する閣僚級対話も行われた。

その結果として、SDGs基準および2015年以降の開発目標、持続可能な生産と消費、科学と政策の相互連携、利害当事者の関与と参加・情報公開・リオ原則10、環境法の整備、資金支援、生態系を基盤とする気候変動適応策、化学物質・廃棄物対策、大気汚染対策、水政策、海洋プラスチック廃棄物・微小プラスチック対策、国連体制内での調整・環境諸条約との調整、野生生物の違法取引、今後の事業計画・予算などに関する決議が採択された。また、国連総会・国連経済社会理事会・閣僚級政治フォーラムを含む国際社会に対して、主要課題への対応を呼びかける閣僚級成果文書が採択された。なお、第2回UNEAは、2016年5月23～27日にナイロビにおいて開催される。

このように、決議の内容は総合的・一般的であり、UNEAへの改組を環境問題の解決に結びつけられるかどうかは、残された課題である。ちなみに、このような改組は、国連貿易開発会議（UNCTAD）をはじめとして多くの国際機関において、南北問題の枠組みの中で展開されてきている、開発途上国による参加の平等・代表権の平等の要求の延長上にある。



持続可能な原材料調達のための情報サイト 「プランテーション・ウォッチ」を開設

地球・人間環境フォーラムでは、他の環境5団体との共同で、持続可能な原材料調達のための情報サイト「プランテーション・ウォッチ」を開設しました。日本に輸入されるパーム油や紙の生産地での環境・社会問題について紹介し、消費側として森林破壊を食い止める取り組みの推進を目指しています。

近年、プランテーションの急速な拡大が熱帯林減少の最大の要因となりつつあり、これは森林生態系や地域住民の生活に多大な影響を与えています。これらのプランテーションは、パーム油・紙・バイオ燃料などグローバルに需要が拡大している商品の原料を生産しており、日本の私たちの消費生活とも無関係ではありません。

本WEBサイトは、東南アジア諸国を対象に、プランテーション拡大による環境・社会影響、日本の企業の関わり、パーム油の認証制度、森林認証についての情報や、現地調査報告を紹介しています。さらに、消費する側の企業として何ができるのかも提案しています。

「プランテーション・ウォッチ」で検索して、現場からの最新情報をぜひご覧ください。



プランテーション・ウォッチ